

国指定重要文化財(彫刻)

ちくぞうやくしにょらいざぞう 木造薬師如来坐像(1躯)・木造薬師如来立像(6躯)(七仏薬師)

【指定年月日】 昭和34年6月27日 【所在地】 松虫7(松虫寺)

平安時代初期に中央から地方に広まったいわゆる七仏薬師です。一般的には光背に七仏が取り付けられたり、描かれることが多く、中尊である坐像の脇に独立した形で立像が3躯ずつ左右に並ぶ組み合わせは他に例がありません。

中尊の薬師如来坐像の像高は54.3cm、 左右の立像は38cmで、いずれもカヤ材 の一木造です。坐像と立像は作風や顔 の形は全く同じであることから、同じ



仏師によって一具のものとして、平安時代末期に造像されたと考えられます。33年ごとに 開帳され、次回の開帳は2045年の予定です。

500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
(年代)														

県指定有形文化財(工芸品)

17 **鋳銅孔雀文磬** 1 ロ

【指定年月日】 昭和60年3月8日 【所在地】 松虫7(松虫寺)

磬は誦経など修法の時に打ち鳴らす器具で、肩幅21.3 cm、絃23.2cm、総高14cm、上縁厚0.9cm、下縁厚1 cm、撞座径5.7cmの鋳銅製です。

縁は上縁が六弧、下縁が五弧で、山形の形状をかたどっています。上縁の左右には鈕孔があり、磬架と呼ぶ台に 吊り下げて使用します。

様式や制作手法から南北朝時代の作と推定されています。



	500	600	800	900	1,000	1,100	1.200	1,300	1,400	1.500	1.600	1,700	1.800	1,900
(年代)														

市指定有形文化財(工芸品)

26 鋳銅鰐□ 1□

【指定年月日】 昭和51年6月1日 【所在地】 松虫7(松虫寺)

この鰐口には「天正拾三年乙酉二月廿八日 松虫寺別當栄澄 鵜沢信濃守 敏信(花押) 烝使」と銘文が刻まれており、天正 13年(1585)に松虫寺の別当(長官)である栄澄が鵜沢信濃守 敏信という鋳物師に注文したものと考えられています。



	500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1.600	1,700	1,800	1,900
(年代)[

市指定有形文化財(歴史資料)

33 板石塔婆 1基

【指定年月日】 昭和51年6月1日 【所在地】 吉高533-1-2(迎福寺)

この板碑は、黒雲南片岩製で、長さ117㎝、幅93㎝あります。 十三仏種字が刻まれた下総型板碑で、下総型の十三仏種字板碑と しては古く大型です。

十三仏とは死者の年忌をつかさどる13の仏を指し、永和4年(1378)に沙弥道妙、妙一という夫婦が自身の逆修供養(生前に死後の供養を自ら行う)のために造った銘が刻まれています。



500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,40	.00	1,500	1,600	1,700	1.800	1,900
(年代)															

市指定記念物(天然記念物)

49 吉高の大桜 1樹

【指定年月日】 昭和56年10月15日 【所在地】 吉高930-1-1(個人所有)

種はヤマザクラで、樹齢は推定300年以上とされます。根回り周囲は6.65m、樹高11.7m、枝張最大幅は24.5mです。4月上旬から中旬頃に花が咲きます。畑の中に立つ株立状の独立木で、根元は周辺より1mほど高い塚となっており、所有者宅の氏神が祀ってあります。



	500	600	700	800	900	1,000	1,100	1,200	1,300	1,400	1,500	1,600	1,700	1,800	1,900
(年代)															